

京都文化カプロジェクト実行委員会理事会（第1回）
主な御意見（テーマ別）

Ⅱ 京都文化カプロジェクトがめざすもの

- ・これからの京都観光では、世界の人たちに日本人の持つ和の精神や心を理解してもらい、それが世界の平和につながる事が大事になる。京都が世界の心の中心になっていくという方向で実施計画づくりに取り組んでほしい。
- ・文化庁移転が決まりステップアップした状況の中で、これまでのオール京都での取組の蓄積を活かし、国の力も借りながら 2020 年に向けて本プロジェクトを展開していきたい。
- ・文化庁移転と本プロジェクトの取組期間はちょうど重なる。2020 年に向けて京都市の文化政策を深化させ、あらゆる政策と融合させていきたい。美術館再整備、市立芸大移転、二条城再整備、ユネスコ創造都市の取組等も併せて進めていきたい。
- ・本プロジェクトを通じて率先垂範して日本の文化力を国内外に示すことが「世界の文化首都・京都」の使命である。経済界としても府民・市民への浸透に努力していきたい。
- ・文化は、衣食住という人々の暮らしの中に詰まっているものであり、この衣食住は、文化だけでなく、自然の働きに強く依存している。京都の文化が東京と大きく違うのは、1200 年の歴史の中で京都の文化が自然の働きに大きく依存しているということ。これからは生き物と文化、文化と文化のつながりを大切に考えていかなければならない。
- ・文化庁の移転に伴い、京都は日本の文化を代表する場所になるが、世界の中の京都の位置を常に頭に置いておく必要がある。京都の文化の価値は、日本的な視点だけでなく、世界の視点で眺めなくてはいけない。たくさんの世界の関心ある人々をひきつけ、京都の文化や思想を世界に発信する場にしていく。
- ・国は、文化カプロジェクトを通じて、文化庁の機能強化や全国的な文化政策における制度的なインフラ整備を進めようとしている。京都でも府・市一体となったアーツカウンシル構想の中に、この実行委員会を位置づけるべき。

Ⅲ 基本方針

2. 「世界の人々に京都の魅力を伝え、もてなす基盤づくり」に関する推進方策

- ・インフラ整備によって 2020 年を越えて京都の魅力を世界に発信し、多くの人に京都に来てもらう基礎が固められるとよい。
- ・歌舞練場など伝統芸能の会場は、耐震面等で様々な問題を抱えている。オリンピックまでに各種会場を整えるほか、神社仏閣、庭園などを使えるようにしてほしい。

- ・世界の人に、京都は本当に素晴らしいと感じてもらうためのインフラづくりがベースになる。
I T社会への対応、世界遺産をはじめ名所旧跡のいっそうの整備のほか、花と緑に囲まれたまちづくりも重要。
- ・京都の文化を伝える際には、鳥の声や新緑の匂いなど五感で感じられる京都らしさにも配慮してほしい。

IV 事業構想

2. 事業内容

- ・流儀や花街にこだわらず、他分野とのコラボも視野に入れつつ舞踊界を挙げて取り組みたい。
- ・J C I（国際青年会議所）世界会議の際に、金沢市内で開催された若手経済人による「まちかど茶会」は大変好評だった。京都でも茶道やいけばな、料理など各ジャンルで「まちかど茶会」的な催しをしてはどうか。
- ・打ち上げ花火が夜空に消えていくときのような「余情残心」に留意し、サステイン（持続させる）効果も得られるよう、素人でも参画できるプログラムを工夫してほしい。